

歯科技工所アンケート集計結果

低賃金に過重労働、後継者いない

群馬県保険医療協会では、歯科医療補綴分野の重要な担い手である歯科技工所（士）の現状を正確に把握し、問題への理解を深めるため、県内全技工所（369件）に「歯科技工所の経営・労務状況等に関するアンケート」を実施し、89件から回答を得た（回収率24%）。

○アンケート結果の概要

県内の歯科技工所のうち、週71時間以上就労している人は38・2%、週91時間以上は10%以上という過酷な長時間労働の実態が明らかとなった。また、1週間のうち休日「ほとんど取れない」という人も3割近くに上った。

このような長時間労働を行っているとしても、可処分所得200万円以下の1人ラボが約5割となるなど、低収入の状況が見てとれる。

「有床義歯5〜8歯」「インレー床義歯9〜11歯」

複雑「全部铸造冠」「铸造二腕鉤」それぞれ現行取引価格と製作期間を比較すると、923〜1500円程度であることがわかる。これは、国家資格を持つ歯科技工士が、一人ひとりの患者のためにオーダーメイドで製作した時間単価としては、余りに低すぎるように思われる。

技工物の価格が低くなる原因を問う設問では、83・1%が「歯科技工所間のダンピング競争」を原因とみなしており、最も少なかったのは「補綴関連の低診療報酬」49・4

「だった」。

技工料金適正化の方策としては、「歯科技工所からの直接請求」が76・4%と最も多く、次いで「概ね7対3の再徹底」66・3%となった。一方で、「歯科診療報酬の大幅引き上げ」を有効だと答えた人は37・1%にとどまり、単なる診療報酬の引き上げでは問題は解決せず、大幅な制度の見直しが必要と考えられているようだ。

自由記入欄では、製作技術を評価せず、安い技工所へと乗り換えられてしまうことを

問題視するもの、それに伴う歯科医師との力関係についての意見を多くいただいた。

*

本アンケートは、全国各協会へ実施されており、その結果を保険連に集積し、今後の歯科技工に係る改善運動に役立てるとともに、当会でも議論を深めていきたいと考えている。

◇実施期間…2016年5月1日～6月15日
◇実施方法…アンケート用紙を郵送、記入して返送

*アンケート結果の全文は、当会ホームページに掲載しています。

